

## 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第2回会議概要

- |   |           |   |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名       | 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第2回会議   |
| 2 | 日時        | 平成29年5月30日(火) 午前9時30分から11時48分まで   |
| 3 | 会場        | 安曇野市役所 共用会議室306   |
| 4 | 出席者       | 宮下(健)委員長、平田副委員長、安井委員、宮下(克)委員、百瀬委員、幅委員、上兼委員、亀井委員、降旗委員、古川委員、三澤委員、堀金委員、舟橋委員、小林委員(代理)<br>《事務局出席》 山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、堀金係長、古畑副主幹<br>株式会社KRC |
| 5 | 公開・非公開の別  | 公開  |
| 6 | 傍聴人       | 0人 記者 0人  |
| 7 | 会議概要作成年月日 | 平成29年6月8日   |

### 会議事項等

#### ○会議の概要

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 開 会  | 蓮井生涯学習課長   |
| 2 | あいさつ | 宮下委員長、山田教育部長   |
| 3 | 会議事項 | (1) 前回会議の意見確認<br>(2) 会議の進め方<br>計画体系の確認<br>(3) グループ討議<br>①基本目標、施策の柱・内容案に関する検討<br>②基本理念(スローガン)の検討<br>(4) その他 |
| 4 | 閉 会  | 平田副委員長   |

#### ○会議事項

- (1) 前回会議の意見確認(事務局より説明)
- (2) 会議の進め方(事務局より説明)
- (3) グループ討議
  - ①基本目標、施策の柱・内容案に関する検討
  - ②基本理念(スローガン)の検討
    - ・3班(A・B・C)に分かれ①②のテーマについて討議
    - ・ライフステージごと(24歳以下、25~44歳、45~64歳、65歳以上)のキーワードを出し合い、その後、ライフステージごとのスローガン案をまとめる
    - ・最後に班ごと発表(発表順は定めず)

【C班】 24歳以下で出たキーワードを見ると、仲間づくり、インターネット・ラインなどを利用している方が多い、就職したばかりで仕事が忙しい、独身者が多い、等。家と会社の往復というイメージが強いことからスローガンを『外に出よう 新しい自分との出会い(発見)のために』ということにした。

25~44歳では子育て世代が多く、結婚、教育、地域に携わる、仕事、また独身の方もいる。家族や仲間と一緒に学ぼうという言葉を入れ、『家族みんなで学ぼう』『家族と仲間と友達と みんなで学ぼういきいきと』と考えた。

45~64歳のキーワードは、責任、孫、ストレス、仕事が忙しい、余裕がない、新しい発見が必要、自分のために時間をつくろう、ストレス解消やリラックス・リフレッシュが必要、などが出た。スローガンとしては『リフレッシュ 自分のために時間をつくろう』『リフレッシュして自分を取り戻そう』

とした。

65 歳以上では、シルバー、年金、ゆとり、時間、自由、いきがい、健康づくり、などのキーワードから、まだまだ知らないことはたくさん、生涯現役、学ぼう最後まで、共に学ぼう、などの言葉としてまとめて、『心豊かに 共に学ぼう最後まで』『心豊かに 共に学ぼうシルバー世代』とした。

【B班】 24 歳以下のところを出てきたキーワードは、エネルギー、夢、未来、将来、など。先ほども話が出ていたが、SNS などの普及で人との直接的な出会いやふれあいが無いということで、それらをもとに『未来のために会いましょう』『未来につながる夢は生涯学習から』『未来につながる出会いと学びを』というスローガンにまとめた。

25～44 歳では、忙しい、現実に、板ばさみ、お金が無い、教育、息抜き、リフレッシュ、と、あまり前向きな言葉がない、というところで、生涯学習をリフレッシュや次なる活力にしよう、という話に持っていき『出かけよう 学びあおう』『息抜きのための生涯学習（栄養剤）』。栄養剤というのは、生涯学習というどうしても硬かったり、とっつきにくかったりするので、生涯学習を別の表現に、別の言葉は何か無いかと話し、『歩んだ証を』や『生きる源、エネルギー』『栄養剤』というような言葉が出たので、それを当てはめてみた。

45～64 歳では、責任、地域の役員、リーダー、まだまだ現役、ちょっと早いかもしれないが、第2の人生、ということで、スローガンは『新たな夢（人生）に生涯学習』『第2の人生、生涯学習がお供します』というようなものになった。

最後に 65 歳以上のところでは、ゆとり、一方で不安、独居、ひとり、孤独、健康、生きがい。心と体の健康、という話もあった。自分たちの歩んできたことの伝承、継承していく役割、という話もあった。これらのことから『仲間づくりで楽しい老後』『いつでもどこでも新たな主役』。誰もが先生になれる、自分が歩んできたことを伝えることから『先生になってみませんか』。

これらとともに、すべてに共通なこととして『伝える つながる 生涯学習』ということで、伝える、つながるはどの世代にもあてはまるキーワードだということになった。

【A班】 一番若い世代（24 歳以下）では、仲間づくりについて、特に SNS などで比較的まだまだやれる世代であり、その仲間も海外などに容易にボーダーを超えていける世代だということ。また、情報入手することと活用が上手な世代なので、そこからボランティアや仕事、自分育てにも彼らは広げていけるのではないかと。願いを込めて「夢を持って」という言葉を入れた。『夢を持って自分づくり・仲間づくりをしよう』というのをスローガンにした。

働き盛りの 25～44 歳は、やはり人生設計に一番力を入れてやる時期。と同時に、この土地を選び、この土地に暮らし、この土地で子どもを育てていくなかで、段々と地元民になっていく時期ということ。子どものおかげで地元民になる、子どものおかげで世界が広がる。そしてもちろん経済的にもしんどいので、資格を取得したり新たな就職をしたり、という世界が広がる時期でもある。ということで『家族と地域のために人生の根を張ろう』というスローガンにした。

リタイアメントされる世代（45～64 歳）については、仕事がすごく忙しく充実する一方、やがて定年、第2の人生につながる、ということ。芸術というものを生涯学習に求めているのはこの世代だけでは、という話にもなり、内面の充実、そこから、生きがいというキーワードがひとつでてきた。親の介護もあるし孫の面倒もみたい。様々な世代との関係も抱えつつ、経済的格差もある。そして何より地域貢献を期待されている世代でもある。生きがいと地域貢献のために、という言葉の中から『自分の内面と地域のために貢献しよう』というスローガンにまとめた。

最後の世代（65 歳以上）は、時間的経済的に一番ゆとりがある、でもそれを支えているのは健康と仲間ではないかと。また絆というキーワードも出てきた。先ほど他の班の皆さんからもつながり、つなげる、伝承という言葉が出ていた。この絆という言葉もおそらく横つながりの仲間だけではなく、様々な世代の一番締めくくりに世代として、縦の絆というものも大切にしてもらえ世代ではないかと思う。『健康と仲間のために 絆と生きがいを』というものをスローガンにしてみた。

(4) その他 事務局から諸連絡